

※第2回総合教育会議資料（R5.9.1）に、  
大学生（P8～9）と就学前教育・保育関係者（P12）  
の「声」を追加

## 次期高知県教育振興基本計画の策定に向けた 各関係者との対話等

# 様々な関係者・当事者の方との対話

次期教育大綱・教育振興基本計画の策定にあたり、内容の実効性等を高めるため、以下のような様々な関係者・当事者の方からご意見をいただく取組を実施。

- ✓ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者
- ✓ 教職課程を履修する大学生
- ✓ 若年・中堅の教職員
- ✓ 市町村教育長
- ✓ 就学前教育・保育関係者
- ✓ 小中学校、県立学校の校長
- ✓ PTA関係者
- ✓ 社会教育委員



各関係者・当事者の方からは、次期教育大綱・教育振興基本計画の策定のコンセプトの一つである、「**目的・目標と手段・手法を混同させない**」という考えから、まずは、

## 「理想的な学校・教育の姿とは何か」

という**目的・目標**をどこに置くかについてご意見をいただいた。

令和5年10月末時点で  
「対話」を実施した関係者からの、主なご意見の概要は次頁以降の通り。

# ▶ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者

県内の高校・特別支援学校高等部の生徒5名からなる「次世代総合教育会議」を開催し、ご意見をお伺いしました。また、県内の高校・特別支援学校高等部の生徒や16歳から18歳までの若者の、教育や学校についての「声」を募集しました。

## ● 次世代総合教育会議（令和5年7月31日開催）における各委員の主なご意見の概要



高知小津高等学校  
嶋本 遙 委員

- ・フィールドワーク等を通じて、学校という枠を超えて、地域や他校とつながることが必要。
- ・個性を伸ばすことで自信を持って自己主張ができる。そのような環境を作るためにも、友達とはコミュニケーションを通じて信頼関係を築くことが必要。
- ・コミュニケーションが社会に通用する力として必要。コミュニケーション能力は、自分たちで話し合い、考える授業によって高まることにつながる。すでに答えのある問いではなく、自分自身が思う答えを探す授業が大切。



高知工業高等学校  
藤村 陽輝 委員

- ・2つの点からの「型にとられない柔軟な学校」が必要。
- ・1つ目は「柔軟な学びができる学校」。一人一人がなりたい自分や目標をもとに、必要な勉強を自分で選択でき、実践的に学べるようにすべき。
- ・2つ目は「生徒の声を柔軟に取り入れる学校」。今の学校は、意見を出しても聞き流されてしまう。生徒から出た意見をどう取り入れていくかを、生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべき。



高知ろう学校  
岩田 桃末 委員

- ・理想とする学校は、「自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校」「地域との交流を積極的に行い、学び合える学校」「自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校」
- ・その実践の例として、例えば、高知ろう学校では、学校給食の食品ロスに着目し、生徒たち自身で検討した対策を実施したり、地域の子ども食堂と交流・連携して対策を進めていこうとする活動に取り組んだりしている。



清水高等学校  
扇喜 賢児 委員

- ・座学中心の受け身の学習スタイルから、逆転授業やグループワークなどの生徒の活動を多く取り入れたスタイルが理想的な学校の姿。
- ・高知県ならではの自然を生かしたフィールドワークを増やしたり、別の高校との合同学習を行ったりすべき。
- ・自分の興味のある分野に主体的に取り組み、その活動の成果を報告・発表することで、その活動が認められ、共感する。そのことによって自信や学ぶ意欲を向上させることができるというサイクルをまわしていく必要がある。



土佐高等学校  
金子 明弘 委員

- ・自分の受けたい授業や、自分に合った授業を受けられるようにするために、朝や放課後の時間を使って授業選択の幅を広げたり、科目ごとに飛び級ができたりするような仕組みがあればよい。
- ・部活動に所属している人は、自分の実力を確かめたり、他校の人と交流して自分の力を発揮したりすることができると思う。それと同じような場が、勉強が得意な人にもあるべきで、数学や理科などの大会をより高頻度で開催してほしい。

令和5年7月31日  
次世代総合教育会議  
配付資料一部抜粋

# ●高知県の教育・学校についての若者の「声」

－令和5年5月から6月にかけて実施した募集で**301件**の「声」が集まる

## 1 校則に関すること いただいた「声」の一部ご紹介

- 1つひとつの校則はなんのためにあるのか、ディスカッションできる場が必要。よくある例でいうと、靴下の色は勉強することに影響を与えるのか、なぜ髪の毛は染めてはいけないのか、でもそれにはある一定の理由がある（一方で根拠が薄く意味のないものもある）よって、高知県の生徒の個性が失われないような形にするために、学校ごとはもちろん、高知県全体でも生徒たちの校則について考えていく必要があると思う。
- なぜ各学校によって校則が違うのか疑問におもっている。この学校ではいいけど、あの学校では禁止などと分けられていたら平等ではなくなり校則を変えてほしいと要望などが出てくるのではないかと思った。
- 私は校則が厳しすぎると思います。社会に出る上でマナーが悪いのはダメだというのは分かるが、高校生らしい服装や容姿でいなければならないというのが理由の校則はあいまいだと感じます。一人一人高校生らしい格好、容姿は違うと思うので、清潔にするとか、周りに迷惑を掛けないとか、マナーを守っての校則違反という状況がないように検討して欲しいです。
- 校則で禁止されているものについての細かな説明がほしい。なぜ禁止されているのか論理的な説明をしてほしい。
- 自分達の周りも新しいものになっていっているから、校則も古いものにこだわっている場合ではない。どんどん新しくしてくれるとありがたいです。
- 制服とかちゃんとした校則があるのはとてもいいと思う。でも他の学校にある前髪が目にかかってはいけないなどそういう校則はいらないうと思う。
- 化粧について、先生方は化粧しているにも関わらず「化粧をするな、落とせ」と言う。そして、先生方がする化粧は「身だしなみを整えるためにちょっとだけしている」というが「身だしなみを整える」目的で化粧をしてきている生徒と同じだから学校の校則で化粧がダメなら先生方もせずにくるべき。それか校則をかえるべき。

### 高知県教育委員会の見解です

■校則については、学校や地域の状況、社会の変化等を踏まえつつ、各学校において絶えず見直しをしていくことが重要です。  
 また、その見直しの過程に生徒の皆さんが参画することは、校則の意義を理解し、自ら校則を守ろうとする態度につながっていくなど、とても意義があることです。身近な課題について、生徒の皆さんが「声」をあげ、「他者との対話や議論を通じて考える機会は大変重要である」と生徒指導提要（生徒指導に関する学校・教職員の基本書）に記されています。  
 県教育委員会としては、こうした生徒の皆さんの「声」を生かした校則の見直しの取組が、各学校において積極的に進められることを目指し、次期教育大綱にも位置付けて取組を推進していきます。

※上記の「声」の分類は、必ずしもご回答いただいた際に選んでいただいた項目とは一致していません。  
 例えば、「高知県の教育」というテーマを選ばれたうえで、校則についての「声」をいただいていた場合には、「校則に関すること」としてご紹介しています。  
 ※頂戴した「声」の一部を抜粋して掲載している場合があります。

# いただいた「声」の一部ご紹介

## 2 施設や設備に関すること

- 地震対策ができていないか不安です。
- Wi-Fiの接続を良くしてほしい。
- プールや校舎をきれいにしてほしい。
- 学校のグラウンドを芝生にしてほしい。
- トイレをきれいにしてほしい。
- 洋式トイレをもう少し増やしていただくか、各トイレに一つは設置して欲しい。
- クーラーは7月からというのは遅すぎると思いました。地球温暖化も進んでいて気温がどんどん上がっているのに未だに日付で決めるのはしんどいと思う。せめて気温で決めてほしいです。

### 高知県教育委員会の見解です

■地震対応については、県立学校の全ての校舎、体育館の耐震対策は完了していますので、安心してください。その他の施設・環境については、老朽化の進行状況や衛生環境などを総合的に判断して、必要に応じて改修等を実施しています。校舎については、今後も長く使い続けるための「長寿命化改修工事」を古い建物から順に実施していきます。また、Wi-Fiの接続について、ストレスのない環境を目指して、機器を更新するなど対応を進めていきます。

## 3 通学に関すること

- 交通機関が少ない。
- 通学手段が自転車か親の送迎しかない。
- 家が遠い人用に学校バスを用意してほしい。通学に時間がかかるのでそのぶん勉強する時間が減ってしまう。
- 道が悪い。
- 道が狭いので車とすれ違うとき危ない時がある。
- 行き道に電灯やカーブミラーが少ないことに悩んでいる。

### 高知県教育委員会の見解です

■現在、教育委員会・警察・道路管理者の三者で連携して、通学路の安全対策を進めています。道路環境はすぐに改善されませんが、粘り強く進めていきます。皆さんも安全な通学を心がけてください。

高校生の皆さんが、充実した高校生活を送るためには、何よりも安心できる環境を整備することが大切だと考えます。そのため、県教育委員会としましては、必要に応じて各関係機関及び保護者等と連携し、生徒の皆さんの安全確保に努めていきます。

※上記の「声」の分類は、必ずしもご回答いただいた際に選んでいた項目とは一致していません。  
 例えば、「高知県の教育」というテーマを選ばれたうえで、校則についての「声」をいただいていた場合には、「校則に関すること」としてご紹介しています。  
 ※頂戴した「声」の一部を抜粋して掲載している場合があります。

# いただいた「声」の一部ご紹介

## 4 授業に関すること



- 一人ひとりにわかりやすく教えてほしい。
- 成績や課題への取り組み方でクラス分けをしてほしいです。
- 最近はタブレット活用なども増えてきて前よりも学習しやすくなっていて良いと思う。
- 先生はわかりやすい授業をしてくれたり、グループ学習もあって楽しく活動できていると思う。今の授業に特に不安はない。
- 授業がつまらない。
- 課外活動の増加を提案します。課外活動によって学校の外に出ることにより自然や身の回りの環境によって得られるものがあると思います。また学校の外に出ることで生徒たちに集団行動のマナーや基本的な生活のルールも身につくと思います。
- 自分の将来の夢に関わる科目などがあると助かります。
- 日本の現状をどう打開するかを教育に入れてほしいです。
- 社会に出た時に必要なことをもっと教えてもらいたいです。
- 英語の授業を、海外で日常的に使うものや発音など、実践的なものを教えてほしい。
- 私は環境問題（SDGs）の学習をしたらいいと思います。今の地球の現状をよく知らない、何となくリサイクル、ゴミ拾いをするなど、何のためにしているのか把握出来ていない人がいるからです。
- 総合探究の時間を設けてくれるのがとても助かる。自分の興味のあることを調べられるので、進学や就職の役に立つ。

### 高知県教育委員会の見解です

■これからの社会では、知識や技能を身に付けているだけではなく、それらを状況に応じてどう使うのか、自分の人生や世界をよりよくするためにどうしていくのかを考える力が求められています。特に生徒の皆さんが成人年齢に達する高等学校では、社会の形成に自分事としてかかわる力を育てていくことが重要だと考えています。そのため、県教育委員会では、各県立学校において、「生徒が目標を共有し見通しをもって取り組むこと」、「生徒が学んだ知識や技能を使って自身の考えを表現すること」、「生徒が学んだ内容や自身の学び方を振り返ること」を大切にしたい授業づくりが行われるよう取り組んでいきます。

また、1人1台タブレット端末は、「声」をいただいた通り、一人一人にとって最適な学習だけでなく、話し合いや共同制作などの協働的な学びの可能性を広げ、探究学習の充実にも効果的なツールです。生徒の皆さんが授業等で活用できるようさらに取組を進めていきます。

特別支援学校では、生徒の皆さんが自立と社会参加をしていくことを目指し、ICT機器を活用した授業や、一人一人が「分かる」「できる」授業づくりに取り組んでいます。また、社会とつながるために、早期からのキャリア教育に取り組んでいます。今後も「声」を踏まえ、このような取組をさらに進めていきます。

いずれも、次期教育大綱にも位置付けて取組を推進していきます。

※上記の「声」の分類は、必ずしもご回答いただいた際に選んでいただいた項目とは一致していません。

例えば、「高知県の教育」というテーマを選ばれたうえで、校則についての「声」をいただいていた場合には、「校則に関すること」としてご紹介しています。

※掲載した「声」の一部を抜粋して掲載している場合があります。

# いただいた「声」の一部ご紹介

## 5 学校の部活動に関すること



- 今はゆるい感じだけど強豪校みたいな部活をしたい。
- 部活動の設備をよくしてほしい。
- 部活動に集中できる環境を作って欲しい。
- 部活動はみんなが楽しくしながら真面目にしているのでいいと思う。
- 先生が忙しくて全然部活に来ていない部が多いので、地域移行などを早くして欲しい。
- 部活の強制参加の緩和。
- 部活時間が少し長い。

### 高知県教育委員会の見解です

■ 県教育委員会として、高知県運動（文化）部活動ガイドラインに基づき、部活動に加入している公立中学校・県立学校の生徒が、適切な休養をとりながら活動できるように取り組んでいます。また、持続可能なスポーツ・文化芸術活動が確保できるよう、まずは公立中学校を対象に地域連携や地域移行など新しい部活動の在り方を検討し、環境整備に取り組んでいます。

引き続き取組を進めていくとともに、次期教育大綱に位置付けて、さらに推進していきます。

## 6 学校外での学習する機会や場所のこと



- 学校外で学べる施設があるため、地域交流や地域学習なども兼ねてその施設での学習の機会を設けてみたらどうかと思う。
- 自習ができる施設を増やしてほしい。
- 地元で勉強できる場所がないことが悩みです。
- コロナウイルスがだいぶ落ち着いてきたので、学校外での活動の場（校外学習や現場実習など）の機会を増やしていただけたら嬉しいです。
- 学校外の活動でももう少し他の高校と活動できるようにしてほしい。
- 違う学科や同じ学科のある県内の高校の人との交流会。

### 高知県教育委員会の見解です

■ 別の高校の生徒と交流・協働し、多様な意見や価値観に触れ、自身の考えを深めていくことは、たいへん意義が大きいことです。県教育委員会としましては、各校の特色ある活動の成果発表など、お互いに交流できる場を設定することについて検討していきます。また、特別支援学校においては、職場体験学習や現場実習等、学校外での様々な学習の機会がさらに充実するよう取り組んでいきます。

県立図書館が運営する高知県電子図書館では、デジタル化に対応し、来館しなくてもタブレット等で利用が可能な電子書籍の充実に取り組んでいます。また、ポータルサイト「まなび場search」では、県民一人一人のニーズや希望に応じた学びに関する情報を提供しています。今後もこれらのサービスの充実・周知により学びの機会を増やしていきます。

※上記の「声」の分類は、必ずしもご回答いただいた際に選んでいた項目とは一致していません。  
 例えば、「高知県の教育」というテーマを選ばれたうえで、校則についての「声」をいただいていた場合には、「校則に関すること」としてご紹介しています。  
 ※掲載した「声」の一部を抜粋して掲載している場合があります。

## その他にもこのようなご意見をいただきました。一部ご紹介します。

- 年に一回でいいので人としてのマナーやルールを守ることの大切さを教える場を設けてほしいです。
- 高知県の教員採用試験の募集人数を増やしてほしい。
- 私の学校では、留学生が来てくれてその国についてたくさんの方が学べたので、他の学校でも留学生を受け入れたり、ALTの数を増やしたりとグローバルな視点を持って行ってほしい。
- 参考にさせていただいたPDFにもあったように、変動性の高い時代だからこそ、自分自身が広い視野を持って、様々な価値観を受け入れつつも、自分の意見をしっかり持つことが重要だと思いました。そのため海外の視野を学ぶために、より留学のサポートをしてほしいです。留学を短期ではなく長期・卒業留学をしたい。
- 全ての学校で、男女共に制服の選択が出来るようになって欲しいです。例えば、男性が女性の制服を選択できるようになって欲しいです。例えば、男性が女性の制服を選択できたり、女性が男性の制服を選択できたりするようにして欲しいです。
- 進路の情報で国公立大学の情報が少なく、あるとしても県内の情報がほとんどなので、県外の大学の情報も生徒のためを思って追加していただきたいです。
- 学校行事を増やしてほしい。
- 地域の人と関わりをもつ機会をふやしてほしいです。
- とても充実している。
- 休みを増やしてほしい。
- 他学年との交流機会を増やしてほしい。校内イベントをもっとしたい。職場体験をしてみたい。（コロナでできなかったから）
- もう少し検定についての本を置いてほしい。
- どの先生も熱心に授業をしてくれていて私たち生徒のことをよく考えてくれていると感じます。
- 今現在日本ではいじめの問題が多発しているので先生はよく生徒のことを見てほしい。
- 先生は自分の価値観を押し付けず理由を説明しながら選択肢の提示をして、生徒に考えさせ選択させることが重要。
- 生徒からの要望に納得が出来ない理由（風紀が乱れるなど）を使うのはやめて欲しい。変える気もないし、相手にされていない感じがする。
- 知ってて当たり前という考え方はわからないことがそのままになってしまい教育に良くないと思います。
- 高知県は他県と比べて学力が下がっていると聞いたので、勉強意識が高まるような声かけをしてほしい。
- 他の県と比べたときに、教育活動が少なくならないようにしてほしい。
- 一人ひとりが学習に対する意欲を高められるといいと思います。
- LGBTについて学ぶ場が欲しい。
- 将来羽ばたく子供のために、本当に今の教育は必要な教育なのかを見極めながら本当に必要な教育をしてほしい。
- 自国に誇りを持てば、日本のために何をすべきなのか、そのための行動ができるようになり自分で社会を切り開いていけるようになると思う。

など

※頂戴した「声」の一部を抜粋して掲載している場合があります。



# 教職課程を履修する大学生

高知大学教育学部のご協力のもと、教育実習を終えたばかりの学生の方々から、グループ協議でのご意見を発表いただくとともに、後日109名の方から「声」をいただきました。



※写真に写っている方のご発言と、下の主な「声」の内容は必ずしも一致しません。

## 【教育実習へ行き、感じたことなどについて主な「声」】

〈よいと思ったところ〉

- ・児童生徒の成長を実感できる場所。
- ・ICTの活用は良い。生徒とのやり取りがやりやすくなったり、分かりやすい教材を提供することができたりするなど、授業に深みが出る一つの要因になっている。
- ・タブレットなどの導入により主体的な学習の幅が広がっている。一人一人の課題に沿った学習内容を提供することで誰一人取り残さない体制ができている。
- ・教員の世代の古いやり方を貫くのではなく、ICTの活用に積極的に取り組んでいるところが、次世代を担う子どもたちのためになっていて良いと感じた。
- ・連絡帳をタブレット経由で見ることができると、伝達したい情報を確実に伝達することができる点が素晴らしい。
- ・学習についていけない子どもも見捨てずに全員で授業に取り組んでいた。
- ・グループ活動や相互に教え合える活動を取り入れ、能動的な学びが行われる授業づくりが展開されている。

- ・教科指導では子どもを主体とした授業の展開や、一人も取り残すことのない特別支援教育の観点を踏まえた授業の工夫等が、実際の教育現場で行われている。
- ・実習でわかったのは生徒が教師を親のように考えているということです。特に大きな悩みを持つ生徒が先生に相談しているのを見て距離感的にも適切で、良い関係だなと考えました。
- ・教員同士の横のつながりがしっかりと確立しており、教員同士が情報交換をしたり、休んでいる先生にすぐに代わって授業をできるようにしているなど、お互いに助け合いながら業務を行っている様子が見られた。
- ・（実習先の学校は）制服の選択肢があった。

〈変えたらよいと思ったところ〉

- ・自分のクラスの先生はあまりICTを使わない先生だった。各クラスにムラがあると本当の意味でICTの活用とは言えない。
- ・タブレット・PCの活用方法については、学校ごとに考える必要があるため、画一したルール作りが必要ではないか。
- ・活動を取り入れすぎると、教科書全体の内容に触れる時間がなく授業が終わってしまっているため、浅い学びになってしまう。

- ・（児童生徒の）実践も大切だが、それが有効になるように説明やアドバイスを教員は適切に行う必要がある。
- ・校則については教員が理由を説明できないものに関しては変えていくほうがよい。
- ・不登校にももう少し手厚くアプローチをすべき。不登校の子にも支援が行き届く学校体制を作っていくべき。
- ・仕事の精査。教師がすべき仕事を精選することで児童とのかかわりや授業に注ぐことのできる力を増やすことができる。
- ・小学校であれば副担任を付ける、教科制を取り入れる、それ以外にも教える以外の教材準備等をするサポートの人員を増やす等人員を増やすことで教師の負担を軽減できる。
- ・教員の数を増やすべき。
- ・教員の労働条件を改善し教員へのイメージを改善することが大事。
- ・忙しさのために教員のスキルアップの時間がない。

## 【理想的な学校・教育の姿について主な「声」】（大学生）

（学校の運営全体について）

- ・理想的な学校の姿とは、偏りなくすべての子どもが積極的に授業を行うことができることではないか。そのためにも不登校児童生徒への対応や児童生徒の意見を尊重した授業を考えることなどが必要。
- ・地域や会社と連携して学校運営を行うこと。
- ・第三者からフィードバックをもらうことができるシステムを作るべきだと思う。「教師も児童生徒も成長することができる学校」が高知県の理想的な学校の姿。
- ・流動的な世界に対応できる生徒を育むために、先生また学校自体が変化を惜しまない学校。しかし、その中でも一本の芯を育むこともとても大事。
- ・理想的な学校の姿とは、児童・生徒だけでなく、教員も楽しく過ごすことができる環境にある学校。
- ・今までの学校教育の当たり前を問い直す。これまでのやり方にこだわらずもっと柔軟に対応すること。
- ・前例にとらわれず、現場主体で取り組みを考えることが必要である。
- ・児童・生徒も教師も、お互いが無理なくのびのびと過ごせることが、理想的な学校の姿。教師が自分の時間や気持ちに余裕をもち、児童・生徒について、授業について深く考えられる時間をつくることが必要。

（授業・学びについて）

- ・VUCA時代であるから、単に暗記をしたり、技能を身に付けたりするだけではなく、最終的には、教師が提示した活動を通して、教師が予測した以上の結果を生徒が導き出せるような授業や学校。
- ・子どもたちを自立・成長させるだけでなく周りとの調和性・協調性を持たせることも重要。学校間での交流を大事にしていくべき。

- ・子供や教師が柔軟性を持っている学校が理想的。児童自身が現代における問題や興味のあることについて発見し、それについて調べられる環境が欲しい。

（児童生徒の関わりについて）

- ・児童生徒が自分たちで考え自分たちで創り上げていく学校。
- ・一人一人が自分の人生を幸せなものにできるよう自己決定能力を養える学校。学校生活の中で、様々な決定をする場面があると思うが、できる限りの範囲で教員が介入をしすぎず、児童生徒自身で選択・決定をできる場を設けることが必要。
- ・理想的な学校の姿とは生徒同士はもちろんの事、教師も含めた多様な人々と関わり合う機会が多い学校。小中学生段階で多様な人々と関わることは重要な機会である。
- ・家庭的な事情や経済的な事情で教育を受けることができない子どもへの支援も必要。

（教職員について）

- ・児童生徒が安全にそして安心して過ごすことができ、教員も時間に余裕を持って授業を行うことができる学校。そのためには、学習支援員や副担任の数を増やし、小学校も教科担任制を増やし、部活動の指導を外部のサポートで行う必要がある。また、不登校児童生徒の学びの場を増やしていくべき。
- ・教員の負担を減らすために中学校以上では部活動の地域移行や、保護者や地域との連携などにより教員の仕事を減らすことが第一。
- ・福利厚生を充実させ、誰もが教師になりたいと思える環境が理想。
- ・ただ採用数を増やしても試験を受ける人がいないと意味がないため、高知で教員になればこのようなメリットがある、制度があるなどと主張していくことも必要。

# 若年・中堅の教職員

高知大学教職大学院のご協力のもと、派遣されている現職教員の方11名、また、教育センター「次世代リーダー育成研修 高知『志』塾」受講の教職員の方34名からご意見をお伺いしました。



## 【学校の現状について主な「声」】

- ・小学校の専科教員やALTの存在が良い。
- ・「教科の縦持ち」によって「学年の生徒」ではなく「学校の生徒」という意識が持てる。
- ・チーム学校で取組を進めている。
- ・フットワークが軽く、ビジョンに向かえている。
- ・「働き方改革」という言葉が広がり、早く帰るのを冷たい目で見られるのはほとんどなくなってきた。
- ・ICTが導入されて、授業がしやすくなった。得たい情報も簡単に入手できるし、保護者等との情報共有も早い。
- ・部活動の活性化、〇〇教育、進路学習など、様々な面で外部の専門家の方が入ることが多くなり、生徒の成長につながるができるようになってきた。
- ・多様性を認める動きが学校でも出てきた。ジェンダーレスの制服や水着は今は当たり前前。

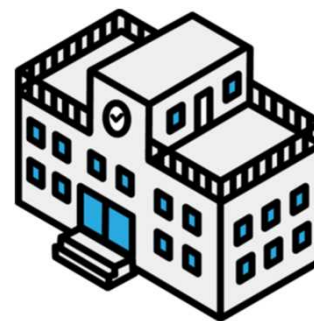
- ・生徒指導対応や学力保障、進路指導など、全部やろうとがんばる先生が多い。
- ・学力差や地域の格差がある中であっても、生徒のために均等に学習機会を与えられている。
- ・「トイレに行けない」という声がある。空き時間がなく授業準備も難しい。
- ・教員のやる業務が本当に多い。プールの管理、家庭対応、経費の管理、全て教員が管理している。
- ・担任を初任者の先生に持たせるのは負担感。
- ・時間外の生徒対応がある。
- ・若年の先生が増えているが、入ったばかりで授業づくりの素地もないなかで、「授業改善」をしきりに言われており、厳しそう。
- ・双方忙しく、管理職と教員のコミュニケーションがなかなかとれていない。

- ・学校経営計画が、網羅的に色々なことが書き込まれていて、負担感が大きい。もう少し各学校の実情を踏まえて、重点を置いて作るべきではないか。
- ・学校経営計画（ビジョン）がどれだけ、先生たち一人一人に下りているのか。また、計画したものを検証する機会が少ない。
- ・学校は前例主義が多い。
- ・昨年もしたからやりましょう、というしがらみのようなものが学校にはある。それを変えようと言っても聞き入れてもらえない。
- ・ブラック校則。理解しがたい校則がある。学校間でも指導の差がある。そのようなものは無くしたらよい。



## 【理想的な学校・教育の姿について主な「声」】（若年・中堅の教職員）

- ・児童生徒も教員も保護者も、この学校で過ごせて良かったと思える学校になってほしい。
- ・教師と子どもも「ゆとり」があること。
- ・人との関わりや、体験・対話のなかで、社会性、AIに負けない授業力・人間力、価値観、折り合いをつける力等を育む場所になるべき。
- ・小学校では、余裕を持った授業準備等ができるよう、教科担任制や専科を当たり前にしてほしい。
- ・学級担任制をやめて、学年担任制・チーム担任制を導入してほしい。ノウハウがない若年教員のサポートもできるし、児童生徒側にとっても複数の教員が「担任」として関わった方がいい。
- ・色々な部分で教員の支援をしてくれる方が入っているが、真に教員が負担に感じているところの支援になっているかを検証してほしい。
- ・スクールドクター、スクールポリスの設置など、外部機関との様々な連携を進めてほしい。福祉との連携のハードルを低くしてほしい。
- ・頑張っている先生方が中心にならないといけない。そういう先生をチーム学校で支える仕組みも大事だけど、同時にスペシャリストの人が学校にどんどん入ってもらおうとか必要ではないか。
- ・教師のやることをもっと明確にしてほしい。
- ・教育課程を柔軟に設定してほしい。例えば、授業日数を増やす代わりに、1日の授業時間を減らすといったやり方が考えられる。授業準備等もできるし、働き方改革になる。また、その場合、長期休業の日数は減るが、家庭に課題がある児童生徒にとっては、むしろ登校をしてもらって学校が居場所になった方がいいのではないか。
- ・多様な生徒を伸ばしていくために、午前中は学校で授業、午後はそれぞれの取組（塾や外部委託した部活動など）を自由に行うことができる制度にしたらい。
- ・高校も義務教育化していいのではないか。
- ・頑張っている先生の心が折れない仕組みづくりをお願いしたい。
- ・専科の先生も授業以外の業務が膨大になっているらしいので、デジタルを使ってスペシャリストに授業をしてもらおうとも考えられる。



# 市町村教育長

市町村教育委員会連合会の竹内信人会長（南国市教育長）、藤田剛志副会長（安芸市教育長）、久保良高副会長（四万十市教育長）からご意見をお伺いしました。

- ・「公教育」でなければ、育成できない・救われない、子どもたちへの支援や寄り添いがあるのではないか。公教育の意義を再確認する必要がある。
- ・教員がいない・なり手がなく、学校が無くなる、働き方改革・多忙化解消・処遇の改善など、学校は危機的状況。
- ・変化が急速で激しく、「ウェルビーイングの向上」が求められる社会のなかで、「教育観」を、「『できない』ことを減らす」から「『できる』ことを増やす」に転換する必要がある。

- ・これまでの学校の枠組み（発想）を変える取組が必要。  
（市町村単独の学校、親子方式学校、特別支援学校と一体化した小中学校、高等学校も含めた学校（同居連携型）、デュアルスクール）
- ・学級担任の責任が重く、集中しているため、担任を敬遠する流れがある。  
学級担任になるにあたっての処遇の改善や、複数担任制・学年担任制による多忙感の解消、専科制による空き時間の確保や、再任用短時間教員の配置等が取組として考えられる。

- ・SSWを正規雇用の常勤職員に位置付けるべきではないか。  
他にも、スクールカウンセラー、スクールロイヤー、スクールナース等の教育以外の専門家の配置を進める必要があるのではないか。
- ・教育基本法にも位置付けられている「家庭教育」が行政施策の盲点になっていないか。多くの部局が関わる必要がある。
- ・「非認知能力育成の場」であるべき。受験学力優先の価値観を転換させ、体験学習の重要性を周知する必要がある。また、つながる力の育成や、ストレスを逃がす方法を育成していかなければならない。

# 就学前教育・保育関係者

高知学園短期大学の山下文一副学長、高知県保育士会の田ノ内学会長、高知県国公立幼稚園・こども園会の門田清子会長、高知市こども未来部保育幼稚園課の宮地豊一課長からご意見をお伺いしました。

- ・一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように、以下のことが大切。
  - ◆カリキュラムマネジメント  
組織的かつ計画的に教育・保育活動の向上を図る取組や、幼児教育の質に関する評価の仕組みの構築に向けた手法開発・成果の普及
  - ◆ICT  
幼児期は直接的・具体的な体験が重要であることを踏まえ、幼児の体験を更に豊かにするための工夫をしながら、ICT化の推進
- ・子どもは先の事を考えず今を精一杯生きている。その姿があるだけで十分だという事の一層の周知と理解が必要。

- ・子どもを中心とした、遊びの充実から様々な世界への展開が生まれてくるような環境を整えば小学校の教育の在り方も変わってくると考える。
- ・保育士の処遇改善は年々行われているが、保育現場に必要な専門性や多忙さからすると給与はまだ少ない。小学校教諭程度まで公定価格の見直しがあれば、保育士不足の解消や保育・幼児教育の質の向上にも寄与していくと考える。
- ・子ども達の未来を支える保育所・保育者の働きぶり重要性を認めていただきたい。
- ・タブレットを使って子どもが友だちと同じ場面を共有するなど、保育の中でICTが活かされることはたくさんある。また、同時に、職員の情報通信技術（ICT）も得ていく環境も必要。ICTを保育に導入していきたい。

- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の徹底が大切。特に幼保支援課のアドバイザーによる園内研修は園内の職員と同じ時間、内容を勉強することができ非常に有意義な研修となる。
- ・支援の必要な子ども・家庭が増加しており、職員は、子どもと向き合う余裕がない状態。このため、若手職員への指導育成が十分できない状況となっており、それが離職にもつながっている。職員が余裕をもてるようになれば、共に学び、育つ関係が生まれ、働きやすい環境が構築されると考える。
- ・現行の公定価格は、事務に必要な人件費が不十分であることから、園長が高度かつ複雑な事務に従事せざるを得ず、園運営の責任者としての職責を全うできない状況。公定価格の改善を行い、園長が園運営の責任者として、保育に向き合う時間を十分に確保することが必要。

## 小中学校の校長

県小中学校校長会の国見佳延会長（土佐南中校長）、北岡秀樹副会長（初月小学校長）、溝淵隆彦副会長（愛宕中学校長）、小川晶子事務局長（昭和小学校長）、松村智明事務局長（越知中学校長）からご意見をお伺いしました。

- ・「理想的な学校」は、児童・生徒にとっては、
  - ▶「明日も行きたい」「学びが楽しい」「行ってよかった」「できるようになる」等、充実感を得られる学校
  - ▶一人一人が将来を生き抜くための確かな力（知・徳・体）を育成できる学校
  - ▶様々なニーズ（厳しい家庭環境、不登校、配慮等）に応えられる教育を提供できる学校
- ・そのためには、①教職員の高い専門性（教師の力量）、②家庭に寄り添う支援体制、③管理職のリーダーシップ・機能する学校、④多様性が生かされる学校の設置、⑤児童生徒数の見直しが必要。

- ・「理想的な学校」は、教職員にとっては、
  - ▶ワークライフバランスを考えた仕事が可能、仕事に誇りを持ちながら働くことができる学校
  - ▶切磋琢磨できる教育実践が可能、高い専門性や力量を形成できるチーム学校
  - ▶児童生徒の成長と自らの成長を実感できる学校
- ・そのためには、①時間的なゆとり、②人員配置、処遇対応、地域と協働、③専門職としての研修体制、④教職員以外の支援体制、⑤改革できるリーダーシップ、⑥離職防止、スムーズな接続等、⑦協働できるコミュニティが必要。

- ・「理想的な学校」は、保護者・地域にとっては、
  - ▶子どもたちの安心、安全が担保され、必要な力（知・徳・体）が保障される学校
  - ▶様々な問題や多様な価値観に柔軟に対応し、適切に解決に導く教育専門性を有する学校
  - ▶家庭・地域とともに協働、活性化することができる学校
- ・そのためには、①子どもや家庭に寄り添う支援・援助体制、②教職員の専門性、③教職員以外の人員配置（法律専門家等）、④児童生徒の資質・能力を育成できるコミュニティの充実が必要。

## 県立学校の校長

県高等学校長協会の藤田勇人会長（高知丸の内高校長）、山田憲昭副会長（高知東高校長）、北村晋助副会長（高知工業高校長）、濱川智明代表理事（高知小津高校長）、窪内真由美理事（高知江の口特別支援学校長）から意見を聞きました。

- ・「理想的な学校・教育」は、
  - ▶希望する進路が実現する学校（どこの学校でもかなう進路希望）
  - ▶子どもたちが実現した進路が将来的に地域貢献につながる学校
- ・理想の卒業生像として、「生きがいを見つけよりよく生きることができる」「自ら進路を定め実現する力」「自ら考え行動する」「将来を切り拓く」「学び方を知っている」「主体的に学ぶ」「文武両道」「あきらめない」「地域リーダー」「高知に愛着を持つ」「高い志」「価値の創造」「人を大切にできる心」「豊かな人間性」「他者と協働」「グローバル貢献」

- ・「理想的な学校・教育」を実現するための手立てとしては以下のようなものが考えられる。
  - （組織（管理職））
  - ：業務（指導）範囲の明確化（行政、地域、教員、教育事務等）
  - ：管理職のマネジメント力強化＋管理職との対話時間の確保
  - ：既定にとらわれない組織づくり（校務分掌の再編成）
  - ：チームを意識させる教職員集団を育成（教職員のウェルビーイングを意識）
  - ：SC、SSW、ICT支援員、各アドバイザー等の専門職員の配置充実
  - ：管理職の役職年齢の引上げ

- （教員）
- ：（教員の意識として）研修から研究への自発的な研鑽の推進
- ：専門力＋αの人材育成
- ：「総合的な探究の時間」の効果的活用によるキャリア教育の推進
- ：成功体験や正答のない経験を積ませる仕掛けづくり
- ：教員定数の増加や給与改善
- （その他）
- ：課程別の教育課程の共通化（共通に履修する教科において）
- ：保護者等との連携強化（親子学習会、学校行事への参加等）
- ：福祉分野との連携（特別支援学校）
- ：教員としてのやりがいを強調した広報活動

# PTA関係者

県保幼小中高PTA連合体連絡協議会の佐竹大樹会長（高等学校PTA連合会長）、齊藤雄也副会長（保育所保護者会連合会長）、岡林拓也副会長（小中学校PTA連合会長）からご意見をお伺いしました。

## 【佐竹会長】

- ・親として求める学校は、①安全で心豊かに安心して学べる学校、②先生や友人と積極的にかかわり社会性が育まれる学校、③主体的に学べる環境の中、知・徳・体がバランスよく育まれる学校
- ・その具現化のためには、①専門分野に特化した教員の配置、②社会人・外部指導者の積極的な導入（教科、科目以外も）、③教育課程や標準単位の柔軟な運用、④体験活動、ボランティア、企業実習、農業体験など、積極的な導入と評価制度、⑤教員の資質・能力の向上研修といった取組が必要となる。
- ・取組の課題は、
  - ▶AIの優れた能力を積極的に活用できる新しい学校教育の工夫改善

- ▶教科・科目の標準単位を柔軟に運用し、高校教育でやるべき「教科・科目」「総合的な探究の時間」「特別活動」の時間配分を学校に任せる仕組みづくり
- ▶高等学校のキャンパス化（高等学校再編）

## 【齊藤副会長】

- ・現状の子ども達は「忍耐力」に個人差が大きくあるので個別対応が必要。
- ・短いスパンで「自分の目標」を設定し、大人がクリアをサポートすることで、成功体験を重ねる。それによって、自己肯定感を養い、問題解決力を鍛え、「変化」に対応できる人間になることが必要。
- ・子どもに対する偏った評価（褒めすぎ、怒りすぎ）によって、保身や萎縮で新しいものにトライできなくなっているのではないかと。

- ・様々な体験・経験を通じて、子どもにとって最適な場所が見つかる仕組みが必要。

## 【岡林副会長】

- ・理想的な学校・教育の姿は、子どもたちが自ら学び、成長できる環境。
- ・個性や能力が異なるなかで、一人一人に合った教育をすることが重要。また、失敗を恐れずに挑戦できる環境も必要。
- ・高知県の豊かな自然と歴史・文化を生かして、自ら学び、成長し社会に貢献できる人材として育てることができる。
- ・国際競争が激化する中で、ICTを活用したり外国語教育を強化したりする必要がある。

# 社会教育委員

高知県社会教育委員会の齊藤雅洋委員長（高知大学地域協働学部准教授）、岩井拓史副委員長（土佐清水市立中央公民館長）、久寿久美子副委員長（津野町教育長）からご意見をお伺いしました。

## 【齊藤委員長】

- ・大人の学習機会が充実した地域学校協働活動（「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築」）が必要。  
子どもが勉強した「現代的課題」について、子どもが大人に教えるという活動が活発に行われている学校が理想的。
- ・誰からも強要・強制されず、真に利用者（学習者）が自主的・自発的・主体的に学んでいる社会教育施設はひとつの理想的な教育の姿。
- ・社会教育士の称号をもった人材がいる学校や社会教育施設、社会教育的な見方・考え方をもちた教員、子どもの学校運営への参加・参画ができるコーディネーターが必要。

## 【岩井副委員長】

- ・域内の歴史や文化を学ぶバランスの取れた教育課程が必要であり、それが「ふるさとへの誇りや愛着」につながり、「未来を切り拓く力」を育む。そのためには、公民館等の社会教育分野との協働がより重要になる。
- ・学校現場のキープレイヤーである教員の「働き方改革」をさらに進め、教員が子どもや教材研究に向き合える環境づくりが必要。大人（教員）がいきいきすると、子どもはそれに感化される。
- ・学校や生きる力の基礎は「読解力」。学校図書館は教育上の基礎的設備であり、「高知県図書館振興計画」等の関連施策を進め、課題解決先進県にふさわしい教育環境を整える。
- ・あらゆる大人が「生涯学習」への正しい認識を深める必要がある。その屋根の下に「家庭」「学校」「社会」の各教育活動が立つ。

## 【久寿副委員長】

- ・理想的な学校とは、知・徳・体のバランスのとれた地域学校家庭が一体となって活気あふれる学校運営ができてい学校。校内では、全ての児童生徒が物事に興味関心を示し、喜びを感じながら主体的に学ぶ姿が見える学校。
- ・理想的な教育の姿とは、子どもの自主性や個性を尊重し、自主的、意欲的に学ぼうとする教育を行う、誰一人取り残されず、個別最適な学習が積み上げられ、全ての児童生徒が学習することの喜びを味わいながら個々の児童生徒が自己教育力を高められる教育。
- ・社会教育において、子育てに悩んでいる家庭を支援するための地域のコミュニティ、団体を支援することが必要。各市町村に社会教育主事を配置し、各地域の特性を活かした社会教育の推進を行うことが必要。